



県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

謹 賀 新 年



■表紙写真 題名：今年は豊作だね 撮影場所：藤枝市蔵田 撮影者：石神 俊一氏（焼津市）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：<http://www.morito hito.jp>

- 2 謹賀新年
公益社団法人 静岡県山林協会 会長 鈴木 康友
静岡県知事 川勝 平太
- 3 支部だより①
富士山の恵み 柿田川湧水
- 4 支部だより②
伐木事故の未然防止に向けた山林協会中部支部の取組
- 5 支部だより③
想いをカタチに

- 6 県庁だより①
県産材の新たな需要先が誕生
- 7 県庁だより②
新たな販路開拓への取組
- 8 本部情報
今年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました
- 8 事務局だより

謹賀新年



公益社団法人 静岡県山林協会
会長 鈴木 康友

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員をはじめ関係者の皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、日頃より、当山林協会の各種事業の推進並びに運営につきまして、多大なるご協力とご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は政権の交代に伴い「大幅な金融緩和による円安への為替変動」、「平成26年4月からの消費税率8%への変更の決定」など、経済分野において大きな動きがありました。

これらを受け、昨年は本県においても新設住宅着工件数が増加しました。今年4月以降は、かけ込み需要の反動による着工件数の減少が懸念されますが、住宅ローン減税などの緩和措置により、林業・木材産業への影響が少ないことを願っております。

また、喜ばしいニュースとして、2020年夏のオリンピックが東京で開催されることが発表されました。オリンピックの開催に際しては環境への配慮が求められ、とりわけ近年では、関連施設の整備に木材が多用される傾向にあると聞いております。この機会を県産材利用の好機ととらえ、色々なチャンネルを通じ働きかけていく必要があります。

県内においても、大型合板工場の建設が富士市内に決定されるなど、県産材の需要増につながるニュースがありました。現在、その供給体制の整備が着々と進められ、今年の夏頃から材の供給が開始される予定です。

静岡県は豊かな森林資源を背景に伝統的に林業の盛んな地域でございますので、今後につきましても、多方面での木材需要を換気し、林業や木材産業を発展させることで、地域経済の活性化に努めてまいりたいと思います。

当協会は、「不特定かつ多数の県民の利益の増進に寄与する」ことに配慮した、「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでおります。本年も会員皆さま方の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びにあたり、会員皆さまの益々のご健勝とご活躍とを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成26年 元旦



静岡県知事
川勝 平太

“ふじのくに” 森林・林業の躍進に向けて

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年、静岡県に、世界文化遺産「富士山」と世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の2つの世界遺産が誕生しました。このほか、ユネスコエコパークに登録申請された南アルプス、伊豆半島ジオパーク、東海道のオアシスである浜名湖など、本県が世界水準の「場の力」に恵まれた地域であることを改めて自覚した年となりました。

本県の森林は、県土の6割を占め、海岸林から森林限界までの標高差が日本一です。多様で豊富な森林資源を誇る「森林の都」として、首都圏・中京圏を始めとする木材の大消費地への近さなどの優位性を最大限に活かしながら、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」を推進しています。森林施業の集約化・路網整備・高性能林業機械の導入・人材育成などによる木材の安定的な生産の促進や、公共建築物や住宅などへの木材利用の拡大に注力し、県産材の需要と供給の一体的な創造に取り組んでいます。

こうした中、昨年9月、富士地域において、建材メーカーが合板を製造する工場の新設に着手しました。本年9月には試験稼働、12月には本格稼働を予定しており、県内に新たな県産材の需要が生まれます。

これは、本県の森林資源の更なる活用に向けた力強い追い風であり、この機を逃さず、県産材の低コストかつ計画的な生産と安定供給を実現しなければなりません。

森林・林業、木材産業を再生し、森林を育てて活かす理想郷「森林の都づくり」の実現のため、貴協会を始めとする関係の皆さまにおかれましては、本年も積極的な御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、この1年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶とします。

平成26年 元旦

支部だより①

富士山の恵み 柿田川湧水

清水町地域振興課

日本で最も短い一級河川、柿田川は長良川、四万十川とともに日本三大清流に数えられています。清水町からは産業や地域を支えてきた柿田川の現況、今後の取り組み等語っていただきました。

【町について】

静岡県東部の伊豆半島の付け根に位置し、東部地域の中心都市である沼津市と三島市に挟まれた県内最小の面積である清水町は、今年度、町制施行50周年を迎えました。

時を同じくして、平成25年6月22日には、清水町のシンボルとも言うべき柿田川の清らかな流れの源である富士山が待望の世界文化遺産に登録されたことは、富士山の恵みを楽しむ町として、この上ない喜びであり、改めて感慨深いものがあります。

富士山からの湧水が潤す町として、全国的に知られ、豊富な湧水量は飲料水や農業用水、工業用水という社会基盤となって町の成長を支えてきました。加えて、東名高速沼津ICやJR東海道新幹線三島駅が近く、町の東西を国道1号バイパスが貫くなど、交通至便な立地で、産業の要衝でも



▲柿田川全景

ありながら、国道1号直下から湧き出す柿田川の自然が混在するなど、恵まれた環境下にあり、暮らしやすい町として発展を続けております。

を通しやすい多孔質の層で、富士山や御殿場地方に降った雨や雪が地下水となって流下し、地表に現れた湧き水の規模の大きなものが柿田川なのです。

柿田川は、わずか1,200mほどの短い川ですが、流域によって様々な表情を見ることができます。上流部では無数の水が湧き出る『わき間』が見られます。『わき間』では、透き通ったきれいな水が緑の藻を左右にくゆらせながら静かに流れ、川床から湧き出す水で灰黒色の砂地を舞い踊らせている様子を見ることができます。

川の上流から500メートルほど下った中流部では、川幅も広く流れもゆったりと流れており、富士山と柿田川の清流を同時に望むことができます。

下流部に架かっている柿田橋からは、水しぶきを上げて流れる柿田川が見られます。柿田川は、この先で狩野川と合流し、合流点では、狩野川の笹にごりとの違いをハッキリ確認することができます。



▲冬の富士山と柿田川



▲柿田川の湧き間

【今後の取り組み】

柿田川湧水群は、名水100選に選ばれたのをはじめ、平成23年9月には国の天然記念物に指定されました。

この指定を受けると同時期に、国土交通省沼津河川国道事務所では、「狩野川水系河川整備計画」において、柿田川における河川環境の整備と保全に関する目標を定めました。「湧水のみを源とし、類い希で貴重な自然環境を有する柿田川については、各種情報を広く一般に公開し環境保全の啓発を図るとともに、今後とも地域一体となって独自の河川環境を構成している生態系や湧水の保全に務める。」としております。

また同事務所は、平成24年3月には柿田川の河川環境の保全・再生を目指した「柿田川自然再生計画」を策定いたしました。この計画の目標は「湧水起源の清らかな流れと、河畔林に覆われ、ミシマバイカモをはじめとした類い希で貴重な水草に覆われた柿田川の姿を、後世にわたって引き継いでいく。」とされています。

この計画は、計画策定から5か年に渡る整備計画であり、町としても沼津河川国道事務所、静岡県等行政との連携はもちろんのこと、柿田川みどりのトラスト、柿田川湧水保全の会等の自然保護団体とも協力し、自然再生に向けて取り組んでまいります。

柿田川は、河川が動植物の命の源になっていることを、あらためて教えてくれます。そして、私たち人間も、この柿田川によって日々の暮らしを支えてもらっています。自然のすばらしさを学ぶ場、自然を守る心を養う場として、柿田川の自然を守り、後世に残していきます。



▲外来種（オオカワジシャ）の除去作業

【柿田川湧水について】

今から8,500年前の富士山の爆発により噴き出た大量の溶岩が、箱根山と愛鷹山との間の狭い谷間を流れ、三島市やこの柿田川上流部まで流れ下った溶岩流は「三島溶岩流」と名づけられました。三島溶岩流は、水

支部だより②

伐木事故の未然防止に向けた山林協会中部支部の取組

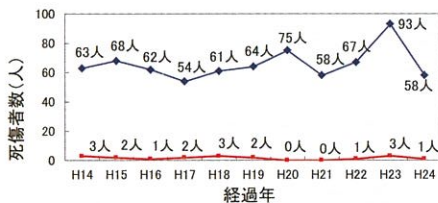
静岡県中部農林事務所

中部農林事務所からはなかなか減らない伐木事故を未然に防ぐため行われた現場研修会の報告をしていただきました。

1 はじめに

伐木作業に係る事故は毎年発生し、「労働災害ゼロ」は実現していません。静岡労働局がとりまとめた平成14年～24年度の林業における死傷災害（事故）発生状況は図-1のとおりです。

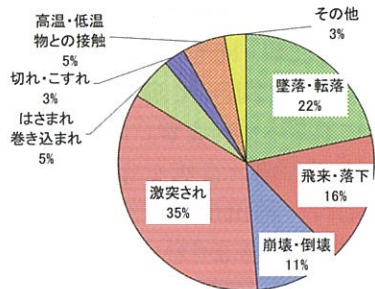
なお、土木工事においても伐木事故は発生しています。



▲図-1 林業における死傷災害発生状況(静岡県)

2 事故の詳細

林業の事故における作業別・型別発生状況は図-2のとおりです。伐倒木に激突される災害（激突され）が多い傾向にあることがわかります。



▲図-2 林業における作業別・型別発生状況(平成24年静岡県 全37件)

3 事故未然防止のための職員育成のための現場研修会を開催

伐木作業における事故を防ぐためには、現場で作業をする方々が安全に関する意識を高く持つことが最も重要であるとともに、森林整備や農林土木工事の発注者である静岡市及

び県職員が、安全に関する指導を行うことも必要です。そこで、安全な伐木作業に関する職員の指導力の向上を目的に、山林協会中部支部では職員対象の現場研修会を11月に3回開催しました。(写真-1、2)



▲写真-1 研修会開始時のあいさつ



▲写真-2 チェーンソーの整備方法を伺う

研修会では、講師の片平成行氏（静岡県林業技術者協会会長）から①最近の事故の事例、②チェーンソーの整備方法、③目立ての方法、④チェーンソーの操作方法、⑤伐倒の方法、⑥“つる”の役割について、指導を受けました。

4 現場でのチェックポイント

伐木や土木工事現場に残った切株から、作業方法を推察するためのチェックポイントは以下のとおりです(図-3)。

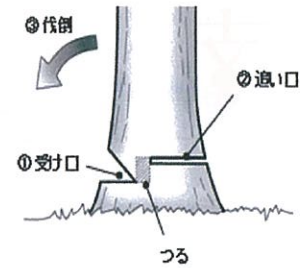


図-3 基本的な受け口と追い口(側面)

① “つる” が機能しているか

“つる”の厚さを左右ともに直径の1/10程度とり、ちぎられていることを確認します。

② 受け口、追い口が適正か

受け口の深さが直径の1/4～1/3であり、下切りが水平に切り込まれ、斜め切りの線と一致しているかを確認します。

また、追い口は受け口の下から2/3程度の高さの位置を水平に切り込まれており、深さは直径の1/10程度を残した位置まで切り込まれていることを確認します。

③ 目立てが行われているか

ソーチェーンの刃はカンナの刃と同じ構造のため、5cm程度の長さのノコ屑が確認できれば目立てが良好であることが確認できます。(写真-3)



▲写真-3 目立ての良好なノコ屑(右)

5 おわりに

参加者は、チェーンソーによる伐倒体験を通じ研修内容をより深く理解できたようです。

今年度、県内で伐木作業に係わる死亡事故は発生していませんが42件の事故が発生しています(平成25年11月末)。

今後も発生する恐れのある伐木事故を未然に防ぐため、静岡市とともに現場指導に取り組んでいきます。

支部だより③

想いをカタチに

TENKOMORI 副会長 山田 真弓

TENKOMORIは森や山に関する知識を広める活動をしている森のプロ集団です。副会長の山田さんから活動内容を紹介していただきました。

『TENKOMORI ～天竜これからの森を考える会～』は、森林所有者、林業、製材業、大工など、天竜の森や木に携わる20～40代の若者が集まった任意団体です。浜松市から「学校で林業のことを伝えてほしい」という要請を受け、平成19年に発足しました。

活動の中心は出前講座です。幼稚園から高校まで、チェーンソーの実演を交えた山仕事の紹介など、各自の得意分野を生かしながら、森の大切さ、木に関わる仕事の面白さを自分の言葉で伝えています。

出前講座では、桧や杉の枝、端材、松ぼっくり等を使った木工体験も人



▲高校生対象の「フォレストガイダンス」



▲幼稚園での木工体験

気です。作品のユニークさに教えている私たちは、いつも気持ちがほっこりします。

しかし、「山の杉や桧は自然に生えたと思っていた。」という生徒が多いこと、山間地ほど山への関心が低いことなど心配の種もあります。また、「木は伐ってはいけない。」という先入観が強く、間伐の説明をした後でも「木を伐るのはいいことだと思う人？」と質問すると、戸惑ってしまう子どもが少なくありません。人工林は手入れをしなければいけないこと、地元の木を使うと地域の森が元気になること、それが世界の森を守ることにつながることなど、伝えることの大切さを実感します。

私は森林環境教育は未来の消費者教育であり、林業の営業活動だと思っています。メンバーが出前講座のために仕事を抜けることで職場に迷惑をかけるのは心苦しいですが、受講者の中から、「将来はあの人達が育てた木を使ってみたい」、「山で仕事をしてみたい」という人が増えれば、「いい風」が吹いてくるはずです。去年はそんな地道な活動が認められ、全国育樹祭で県知事より表彰を受けました！

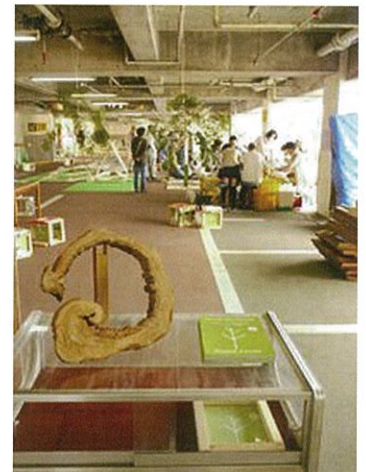
出前講座以外にも、「山の楽しさを体験してほしい」という思いから、間伐体験を盛り込んだキャンプや山コン（山での出会い）なども企画しています。街の人に接してみると感じることは、「山や木や林業は予想以上にウケがいい」ということです。そして、参加者が「自分にできること

は何か？」とそれぞれの専門性を生かして真剣に考えてくれることに感激しました。

また、最近是他団体からのワークショップの依頼が増えました。異業種との協力により内容が格段におしゃれになったり、山側の人間には当たり前すぎて見落としてしまう山の良さが見つかったり、刺激を受けます。



▲親子向けイベント「探検！きこりの森」



▲コラボイベント「Simple Forest」

メンバーが最も楽しみにしている活動。それは飲み会！木のプロ達が集まるので話題は尽きず、職場を離れて何でも話せる場所は他にはありません。仕事では林業の現実を見つめ、TENKOMORIの活動では林業の楽しさと可能性を探求し、飲み会で息抜きをする。そんなメンバー達が今日も天竜で頑張っています！

活動やイベント情報は

HP：<http://tenkomori2007.jp/>

Facebookページ：

<https://www.facebook.com/tenryu.tenknomori>

tenknomori

からご覧ください。

県庁だより①

県産材の新たな需要先が誕生

交通基盤部 森林局 森林整備課

建材メーカー(株)ノダが富士川事業所内に合板工場を新設することになりました。森林整備課から県産材の工場への安定供給について語っていただきました。

三年目の春を迎え

県では、平成24年を「ふじのくに森林・林業再生元年」と位置づけ、充実した森林資源を生かしつつ、森林・林業の再生を図るため、需要と供給を一体的に創造する取組を「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」として進めてまいりました。

この成果のひとつとして、昨年、(株)ノダが富士川事業所内に合板工場を新設することを決め、この秋には

本格稼働する予定です。

安定供給が絶対条件

森林整備課では、合板工場の新設に向け、関係者と原木を安定的に供給するための体制づくりを進めてまいりました。

一年で約13万㎡を消費する合板工場の新設には、原材料である原木を安定的に確保していくことが絶対条件です。これに応えるため、静岡県

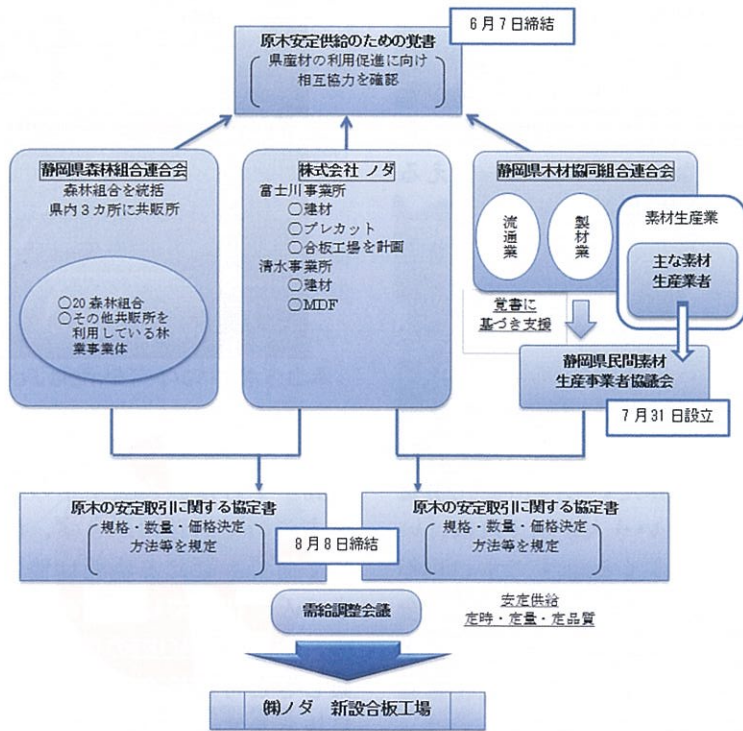
森林組合連合会が中心となって、各森林組合等から原木を集めるとともに、民間の素材生産業者が集まった静岡県民間素材生産事業者協議会も加わり、それぞれノダに供給していくこととなりました。

なお、製造される合板は、ノダ社内で製造しているフローア材の台板や、コンクリート型枠用合板等として販売するなど、外材需要の置き換えや販路の開拓により、安定した需要先を確保することで、原木買取価格の安定化を目指していく予定です。

林業事業体経営の下支えに

県内に合板工場ができることは、林業事業体が安定した経営をするうえで、大きなアドバンテージになります。合板用の原木について、最低限の買取価格や需要量が一定の期間変動しないことで、目標とすべき原木生産量や売上などの計画を立てやすくなるはずですが、

安定取引に基づく原木生産を林業事業体が行っていくためには、資本を集中投資するに値する高い生産性が見込める林地を集約化した森林経営計画を策定し、労働力や機械類を最大限に活用する年間事業計画を立てることが必要です。さらに、あらゆる品質の原木について、需要先の要求する商品として生産し、適切に選別する能力も求められます。



「原木の安定取引に関する協定」に基づく供給量

(単位: ㎡/月)

区分	総供給量	「原木の安定取引に関する協定」			締結分 静岡県 民間素材 生産事業者 協議会	その他	備考
		静岡県森林組合連合会	静岡県民間素材生産事業者協議会	計			
1年目	9,500	6,300	2,000	8,300	800	400	
2年目	10,000	6,500	2,000	8,500	1,000	500	
3年目	11,000	7,000	2,000	9,000	1,500	500	

132,000㎡/年

シェア獲得には初動が肝心

消費税増税、大口需要先である合板工場の稼働など、今年は県内の林業・木材業界の環境が大きく変化することが見込まれます。合板工場が整備されることは、原木の生産現場が木材のサプライチェーンの最上流を担うことが、明確に位置づけられることを意味しています。

県としては、原木を供給する側が合板工場の本格稼働当初から、しっかりとその責務を果し、かつ確実に原木供給のシェアを獲得することにより、林業事業体の安定経営が確立できるよう、生産体制の改善などについて引き続き支援していきます。

県庁だより②

新たな販路開拓への取組

経済産業部 農林業局 林業振興課

林業振興課から県産材の新たな販路を国外に求める取組について報告していただきました。

県産材の新たな販路を開拓するため、県は、平成25年度から県産材輸出促進事業を実施しています。これまで輸入のイメージが強い木材ですが、全国的には輸出の機運は高まっており、九州地方ではすでに4県がスギ・ヒノキの輸出に取り組んでいます。

県は、平成24年度に県産材輸出研究会を設立し、県産材をすでに輸出しているまたはその意欲のある県内企業を会員とし、日本貿易振興機構（JETRO）や静岡県国際経済振興会（SIBA）をオブザーバーに迎えて活動しています。

今回は、県産材輸出促進事業として、県産材輸出研究会を中心に取組んだバイヤー招聘について報告します。

バイヤー招聘

県産材輸出促進事業の今年度の取組の一つに、「バイヤー招聘」があります。これは、海外の木材関係のバイヤーを県に招聘し、県内の資源や木材利用施設を視察、商談会を開催して、実際に県内企業の県産材輸出ビジネスに結びつけようとするものです。今年JETRO、日本木材輸出振興協会と連携して、中国のバイヤーを招聘しました。中国では、経済成長とともに木材需要が大きく伸びており、木材輸入大国となっています。また、来年度には木構造設計規範（日本の建築基準法に該当）が改定される予定で、日本のスギ、ヒノキ、カラマツが中国の木造建築に使用できる木材となり、建築方法として木造軸組構造も認可される見込みであり、中国には輸出先として大きな可能性があると考えられ

ます。中国の木材バイヤーの来静は、12月4日～6日。先述の研究会のメンバーを中心に、視察先・企業訪問等の行程を検討し、設定しました。

木材輸出セミナー

12月4日には、グランシップにて、木材輸出セミナーを開催しました。来静したバイヤー4名の方からプレゼンテーションをしてもらい、中国の木材利用、中国の木材輸入状況についての情報提供がありました。会場には40名程度の参加者が集まり、質問も多く出されるなど熱のこもった時間となりました。

また、SBSテレビがその日のニュースで紹介するなど、注目度の高さがうかがわれました。

バイヤーは、それぞれの企業概要や展開している事業について説明しました。現在建築用材として使用されている台湾スギを、日本のスギに置き換えていきたいと話すバイヤーや、FSCのCoC認証を取得しているため、FSC材を積極的に購入していきたいというバイヤーもいました。

ある企業では、北米からSPFを多く輸入し、品質の低いものは輸出用の梱包材、室内装飾、品質の高いものは家具、壁面材等に使っており、輸入量は年々増加しているようです。また、2×4住宅工法の技術指導を、カナダ人講師を招いて行っているとのことも紹介されました。

バイヤーの方々から口を揃えて言っていたのは、「中国国内のニーズに合った材料を提供することが大切」という

ことで、それには、日中両国の木材関係者が協力して動いていくことが重要ということです。日本の木材は、中国ではまだ認知度が低く、認知度をアップさせていくことがこれからの課題となっています。品質の高い県産材が中国市場に食い込んでいくには、県産材の認知度を高め、品質の高さをPRできるよう、今後も働きかけをしていくことが重要です。

会場からの活発な意見・質問に、バイヤーも丁寧に答えていただき、時間を延長して質疑応答を行いました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

商談会

セミナー終了後、日本貿易振興機構主催の商談会が開催され、非常に活発な商談が行われました。

短い時間の中でも、自社製品を積極的にPRし、見積依頼された企業もあったようです。商談数は20件で、県内からは7企業が参加しました。新しいビジネスにつながることを期待します。

視察の様子

内装材の生産工場への企業訪問でも、バイヤーは熱心に説明に耳を傾けました。通訳を介しての会話だったので、常に声が飛び交う状況で、商売に積極的な姿勢を感じ取ることができました。商品だけでなく、「立派な木造ですね。集成材ですか?」「トラスが見えていて良いですね」など、建物についての意見も出ており、木材関係者ならではの言葉が聞かれました。

今後の展開

木材の輸出に関しては、これからも継続した取組が必要です。県は、市場調査、海外展示会への出展など、今後も取組を進めていく予定です。

なお、県産材輸出研究会の参加企業を随時募集しています。林業振興課までお問い合わせください。



本部情報

【今年度の治山・林道等の優秀工事が決まりました】

山林協会では、治山・林道・森林整備等工事の中で、施工の優れた工事や木材を積極的に工夫して使用した施工者を顕彰し、森林土木技術者の育成と施工者の技術向上を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から多数の推薦を頂き、慎重な審査の結果、エントリーされた下記の工事に対し山林協会会長賞を授与することとなり、10月18日に表彰式を執り行いました。

工事は、工事評定点が高いことは勿論のこと、急峻で狭隘な作業現場条件での優れた技術力や創意工夫が高く評価されました。

その中でも特に優れた「24治山（奥地保安林）佐折1工事（株小松建設）」と「23治山（緊急）菩提山市ノ沢工

事（株中山建設）」の2件を、（一社）日本治山治水協会・日本林道協会が主催する工事コンクールへ推薦したところ、それぞれ栄えある林野庁長官賞、治山治水協会会長賞を受賞しました。11月20日、東京の都市センターホテル（千代田区平河町）で授与式が行われ、長官賞の受賞は本県では2年連続の快挙となりました。

来年度もこの流れが途絶えないよう優秀工事の推薦をお願いします。

受賞者の皆さん!!

受賞者	施工地	工事名
斉藤土木(株)	賀茂郡河津町	24 治山（奥地保安林）河津七滝1工事
東静建設(株)	駿東郡小山町	23 治山（過年災復旧）台風9号災害査定第5号ガラン沢工事
(株)小松建設	富士宮市佐折	24 治山（奥地保安林）佐折1工事
旭建工(有)	静岡市葵区足久保口組	23 県単治山（県営）井上(平準化)工事
(株)中山建設	藤枝市滝沢	23 治山（緊急）菩提山市ノ沢工事
(株)増田組	御前崎市佐倉	24 県単治山（県営）箆川右岸工事
天龍造園建設(株)	掛川市浜野	24 治山（保安林緊急）浜野工事
(株)山俊市川組	静岡市葵区長妻田	23 道整備交付金権七峠線2工区工事



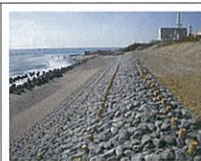
斉藤土木(株)



東静建設(株)



旭建工(有)



(株)増田組



天龍造園建設(株)



(株)山俊市川組

林野庁長官賞



(株)小松建設

治山治水協会会長賞



(株)中山建設



事務局だより

内陸の「島」

県内には各地に「島」の付く地名がある。安倍奥の梅が島、大井川流域にも樫島、明ヶ島、天竜川浜松側の河口近くには五つの島からなる五島地区がある。以前から山間地に

「島」の付く地名があるのが不思議に思っていた。「シマ」は川沿いの耕地とか、一定の領域を確保する（ヤクザのシマなど）意味があるとのこと。そう云えば、梅が島や樫島などは川沿いに狭い平地がある。なるほどガッテン。それと川の中洲や河川の合流する三角地帯も「シマ」とい

う。五島地区は中洲、信玄と謙信の合戦場「川中島」は河川の合流する三角地帯だそうだ。（橋本）

公益社団法人

静岡県山林協会

「森と人」
編集・発行

静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F

TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489